



特定非営利活動法人

おもしろ科学たんけん工房

2005年4月1日発行

たんけん通信 第11号

“おもしろ科学体験塾” 2005年度スタート4ヶ月の予定

予定表 変更する場合がありますので、参加申し込みは募集のチラシや、ホームページの案内を見て行なってください。

月日	開催場所	テーマ
4/16	鵜沼中学	レモン電池と備長炭電池
4/16	藤沢市 少年の森	親子で楽しむ タンポポ調査 午前～午後 弁当持参
4/23	横浜こども科学館※	気体の力の実験・工作
4/23	横浜こども科学館※	竹とんぼを作って飛ばそう
4/29	横浜市 舞岡公園	親子で楽しむ タンポポ調査 午前～午後 弁当持参
5/14	鵜沼中学	紙コップでヘッドホン
5/21	湘南台	気体の力の実験・工作
5/21	永野小	ジェットコースター
5/28	男女共同参画センター 横浜 生活工房	紙コップでヘッドホン
6/11	鵜沼中学	紙ヒコーキパートⅣ
6/18	湘南台	万華鏡をつくろう
6/18	永野小	プラスチックで遊ぼう
6/25	男女共同参画センター 横浜 セミナルーム	万華鏡をつくろう
7/9	鵜沼中学	夏だ！船を作ろう
7/16	男女共同参画センター 横浜 生活工房	牛乳パックで紙スキ
7/23	永野小	夏だ！船を作ろう
7/30	湘南台・鵜沼 藤沢市新林公園	親子で楽しむセミのぬけがら調査 (2005)

※印の教室の申し込みは「横浜こども科学館」へ

☆ 「横浜女性フォーラム」は、[男女共同参画センター横浜]と名称変更になりました。(通称として「フォーラム」は使用可)

＝2005年度事業計画＝

横浜市との協働事業が新たな柱に

今夏から来春にかけて

科学体験活動推進スタッフ養成研修を4回開催予定

8月には(財)横浜市女性協会との共催で

10月には(財)横浜市青少年育成協会との共催で

さらに12月、2月にも計画。(関連記事 3ページ)

おもしろ科学体験塾のほかにも、出前授業や、イベントへの出展もできる限りやっています。

地域住民と学校との間に 心の強い絆(きずな)を!

おもしろ科学たんけん工房 代表
安田 光一

最近10年間を振りかえってみると、外部から学校の構内への侵入殺傷事件が、たびたび起こり、その都度学校の警備体制や、防衛体制強化が声高に叫ばれて来ました。

そして学校を地域の人々に開放しようという願いを踏みにじってしまうような、「警備を固め、地域の人々までも学校に入りづらいものにしてしまう」ハードな施策が進んでいます。

果たしてこれでいいのでしょうか?

本当は、地域の人々が、気軽に学校に集まり、教職員とも気軽にふれあい、お互いに尊敬しあう関係づくりがたいせつなのではないのでしょうか? たくさんの人々が絶えず集まるような地域の中心、コミュニティの中心に学校がなっていれば、それが一番安全なのではないのでしょうか? 門扉をがっちり閉め、監視カメラですべての人を監視する。その中に子どもを安全に保護するという考え方は、なんとも悲しいことに思えてなりません。

そして、事故があるとすぐ校長の管理者責任を追及する社会の風潮や、マスコミの姿勢にも、私は腹立たしいものを感じずにはいられません。社会やマスコミにも責任があることを忘れていませんか? と言いたい。

2005年度も

模型飛行機製作特別教室がスタート

会場：藤沢市立村岡中学校

藤沢市内中学生を対象に、定員 25名

3月から6月まで5回シリーズ

昨年開講して好評だった、おもしろ科学たんけん工房の特別クラスが今年も開かれました。受講できるのは藤沢市内の中学生です。主任指導員はおもしろ科学たんけん工房副代表の郷さん。他に当工房のスタッフ数人が応援しています。

藤沢市の公立中学校の間で毎年7月に飛行物体大会が開かれています。この大会を目指して、ライトプレーンの製作にチャレンジする子どもたちが、より良く飛ぶヒコーキづくりを目指して、この特別クラスに参加します。

おもしろ科学たんけん工房の目標
子どもたちが自転車で行けるところに
あまねく「科学体験塾」の展開を！

不思議だと思うこと、これが科学の芽です。
よく確かめ、そして考えること、これが科学の茎です。
そうして最後に謎がとける、これが科学の花です

2004年度 おもしろ科学体験塾 後半の実施報告

実施月/日	曜日	場所	テーマ	応募	出席
09/11	土	鵜	風向計を作ってみよう	19	19*
09/18 午前/午後	土	湘	ふしぎな噴水ーヘロンの噴水を作ろう	55	51
09/25	土	戸	電子サイコロ	27	26
10/9※	土	鵜	ヘリコプター	33	24
10/16	土	湘	風向計を作ってみよう	35	31
10/23	土	永	紙コップでヘッドホン	25	24
10/30	土	戸	磁石と電気_モーター	25	23
11/13	土	鵜	シャボン玉、スライム	21	20
11/20	土	永	ヘリコプター	14	12
★11/27	土	湘	ジェットコースター	49	24
11/27	土	戸	シャボン玉、スライム	39	27
12/04	土	鵜	磁石と電気_モーター	25	21
12/11	土	湘	信号機ー回路の勉強	27	26
12/11	土	永	空気の重さ・圧力	19	18
12/18	土	戸	磁石と電気_モーター	18	16
1/15	土	鵜	太陽熱風車	28	26
1/22	土	湘	簡単カメラ、分光器	19	15
1/22	土	永	信号機ー回路の勉強	17	16
*1/29	土	戸	ブザー/モールス信号	37	29
*1/29	土	湘	ジェットコースター	—	19
2/12	土	鵜	信号機ー回路の勉強	34	32
2/19	土	湘	紙ヒコーキ パートⅢ	28	26
2/19	土	永	静電気/静電モーター	14	12
*2/26	土	戸	信号機ー回路の勉強	37	29
3/12	土	鵜	電子サイコロ	25	23
3/19	土	湘	レモン/備長炭 電池	21	20
3/19	土	永	コマの実験、工作	16	15
3/26	土	戸	水をきれいにする	28	

※10月6日は台風のため中止、11月6日(土)に実施しました。

★11月27日の「転がれ進めジェットコースター」は応募多数のため、落選者のために、1月29日に再度実施しました。

その他 *印 の催しは抽選で参加者を制限しました。

場所の記号 鵜=鵜沼中学校 湘=湘南台高校、

戸=戸塚: 横浜女性フォーラム 永=永野小学校



9月25日(土)横浜女性フォーラム生活工房会場
「マイコン入門ー電子サイコロを作ろう」で
生まれてはじめての半田付けに挑戦しました。

2004年10月からスタートした永野小会場で
(横浜市港南区上永谷)1月22日(土)
赤青黄色に光る信号機を作って電気回路の勉強。



- ・信号が作れたので楽しかった。少し難しかったけどよく分かった。(4年 女)
- ・力一杯使う時がありました。信号など作るときが楽しかった。(4年 女)
- ・電気の通り道(かいり)がよく分かった。(4年 女)
- ・信号が作れたこと。(4年 女)
- ・ネジを回すのが大変だったけど うまくできてよかったです。(4年 女)
- ・理科がもっと楽しくなった。(4年 男)

今日 この教室に参加してどんなことが一番よかったか?アンケートの答えです。(自由記述)

おもしろ科学たんけん工房が提案した「科学体験活動推進スタッフ発掘・養成事業」が横浜市との協働事業に選ばれました。

横浜市の協働事業に 111 件の提案があり、そのうち 22 件が第 2 次審査（公開プレ）に進み、最終的に 10 件が選ばれました。社会的ニーズが高く、民と官が協働で進めるにふさわしいテーマと認定されたわけです。

NO. 572
広報
よこはま
 YOKOHAMA
 平成 17 (2005) 年
2 月号
 毎月 18 日発行
 人 口 約 3,558,867 (54 万)
 専 用 番 号 1-445-2221 (54 万)
 〒221-8501 横浜市中区本町 1-1-1
 〒221-8501 横浜市中区本町 1-1-1

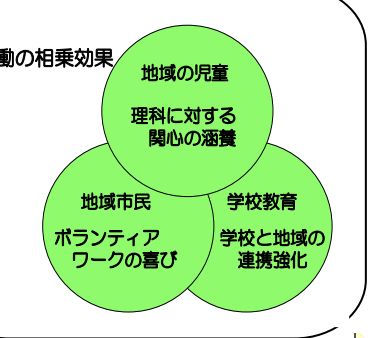
横浜市役所 045-671-2121 (代表) 045-671-2122 (受付)

市民の発想・実行力を活かした公共サービスの実現へ 協働事業の推進

事業名(団体名)	事業内容	分野
失語症者のコミュニケーション支援事業 (横浜失語症協会/パートナーを養成する会)	失語症者/パートナー (失語症者と適切にコミュニケーションできる人) を養成し、失語症者を支援します。	保健・医療・福祉
町町なんでも SOS 班事業 (NPO 法人 さなざな)	高齢者の住居・ホームレスの福祉制度への要望の把握と問題解決の支援を行います。	保健・医療・福祉
金沢区こころの訪問相談事業 (NPO 法人 こころの電話金沢)	一人暮らしの人などを対象にした電話相談、交流会などに加え、匿名訪問を実施し、相談・話し相手のサービスを提供します。	保健・医療・福祉
国内バリアフリーマップ作成事業 (横浜ジェントルタウン倶楽部)	「国内バリアフリーマップ」(視覚障害のある人のために活用できる「地図型社会」の現状を把握し、まち歩きなどを通じて、認知症の活用と周知を行います。	子どもの権利
港南中央公園プレーパーク事業 (こどもの学び生き生きスペースつくり会)	竹林を活用した遊び場づくりを実施し、乳幼児親子や放課後の学童の遊び場、青少年の居場所づくりなどを進めます。	子どもの権利
青少年による家庭育児支援・地域ネットワーク事業 (NPO 法人 ひのひの)	大学生などの青少年を育児家庭にボランティア派遣し、育児家庭への支援や青少年の居場所づくりを進めます。	子どもの権利
新治・森の恵み活用事業 (新治市民の森愛護会)	新治市民の森の樹木材を有効活用した「森の恵み活用袋」作りを通じて市内の森の保全につなげます。	環境
道志村水源林開放村ハマ子ブランド化事業 (NPO 法人 浜びと・まち・くらし研究会)	道志村水源林の開放村を新しい資源(横浜のブランド)として活用し、横浜市民のための水源林の保全や道志村への関心を喚起します。	環境
外国人民間賃貸住宅入居支援コーディネーター養成事業 (かながわ外国人暮らしサポートセンター)	外国人の民間賃貸住宅の入居相談などを担う人材を養成し、入居支援・居住支援を進めます。	国際協力 社会教育
科学体験活動推進スタッフ発掘・養成事業 (NPO 法人 おもしろ科学たんけん工房)	科学を通じて生き生きとした体験を子どもができるように「科学体験活動推進スタッフ」を発掘・養成します。	国際協力 社会教育

長期目標
 継続的・計画的に
 ・児童が自転車で 行けると
 ころにあまねく・科学体験活
 動の場があるように

協働事業の課題
 スタッフの大規模発掘・養成
 潜在ボランティアへの呼びかけ
 スタッフ養成講座
 実習の場 (電気水火が使える)
 小中学校の理科室などの活用

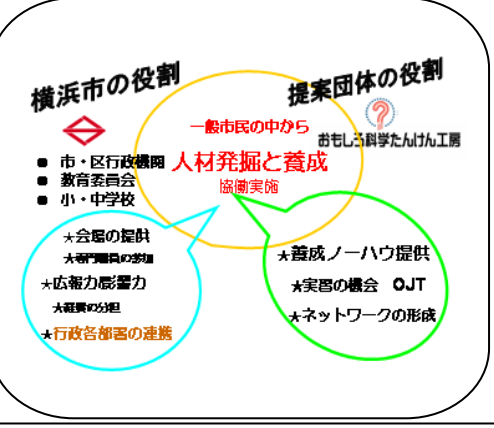


科学体験活動推進スタッフ発掘・養成事業 (NPO 法人おもしろ科学たんけん工房)



科学を通じて生き生きとした体験を子どもができるように「科学体験活動推進スタッフ」を発掘・養成します。

私たちの申請したスタッフ発掘・養成事業は社会教育の分野で 1 件選ばれました。具体的には、横浜市（教育委員会生涯学習課が主管）と協働で H17 年度中に 4 回（8 月、10 月、12 月、2 月）の養成研修、現場実習を行い、スタッフを育てていきます。同時に科学塾の拠点も増やし、科学体験活動がますます盛んになるよう努力していきます。



～科学体験活動インストラクター養成研修会～

横浜こども科学館を会場に 3日間の入門研修

30名が受講終了しました;続いて現場実習に挑戦中です

□去る2月15日を初日として、2月22日、3月1日と3日間にわたる研修会が、磯子区洋光台にある[横浜こども科学館]で開催され、老若男女30名が参加して、実験や工作など盛りだくさんの実習プログラムに挑戦しました。

□この入門研修を終了した30人は、更に子どもたちと実際に触れ合う現場に出て、[現場実習]を重ねて、インストラクターとしての実践的なノウハウを身に付けてゆくことになります。

今回受講者の男女別/年代別構成

年齢区分	男	女	合計
～29	1	4	5
30～39	3	5	8
40～49	0	3	3
50～59	0	1	1
60～	12	1	13
合計	16	14	30

男性はほとんどが、定年を過ぎた60代なのに対し、女性は20歳から50歳まで比較的分散しています。

(M-60) 久しぶりに子どもに戻って、作る楽しみを味わうことが出来た。事前準備の大変さに気付いた。実習の重要なキーポイントの一つが事前準備にあると思う。各講師の工夫に学ぶことが多かった。

M=男性
F=女性
数字は年齢

(M-63) 昨年の夏に続いて2回目ですが、何回やっても楽しく夢になれる研修でした。つい知識とか理屈が先行しがちでしたが、この2回の研修を通して そうではない!楽しむことだ!ということが実感できました。地域での今後の同様の活動に大変役立ちます。



(M-62) 横浜北部でも是非拠点を作りたい。どうすればよいか具体的にお話したい。新聞に「おもしろ科学館」米村治治郎著(オーム社)がPRされていた。この種のテキストは他にもあるのか教えてほしい。

(M-61) 工夫された講義で楽しく受講できました。現在の4ヶ所の教育現場から、自分の居住区泉区で、おもちゃドクターをやっている男性の何人かに声を掛けて、その人たちにこのコースを受講して頂いて、泉区で何人かのグループを結成して、活動ができるように努力をしていきたいと思ひます。ありがとうございました。

受講者の感想から

(F-24) 久しぶりに子どもの気持ちになって楽しみながら学ぶことができた。子どもの前で実際にやるのが楽しんだ。子どもの前でやってみる中でまた学ぶことが多いと思うので、これからたくさん経験を積んで、子どもと一緒に楽しみたいと思った。

(M-31) 研修会が平日ということもあり、受講者のほとんどが年配の方で、皆さんとの温度差を多少感じました。(ちなみに私には5歳と1歳の子供がいます) 研修内容はおもしろかったので、今現在、父親、母親の人たちが研修に参加できる日に会を開いて、現場のお父さん、お母さんたちにもっと参加してほしい。



初日の実習風景
紙コップでヘッドフォン作り

(F-43) 先生方のお話、実験・実習とも大変興味深く楽しかったです。まだ仕事をしていて、土・日もお休みとは限らないのですが、これからも、出来る限り参加して、いずれうちの近所でも始めたいなと思ひます。

(F-25) 子どもだけでなく大人もひきつけられる実験は、理科離れを防ぐ大きな鍵だということ再認識しました。危ないから、面倒だから、という理由で子どもたちを様々な機会から遠ざけてしまうのは、かわいそうだと思います。一人一人が持つ能力を伸ばす社会を望みます。能力のオーナーではなく、ユーザーでなければならぬ!

(F-20) 「あ、そうなんだ!」という驚きと発見は、自ら学ぶということの基本になることだと思います。こういう驚きを、子どもたちにも伝えたいと思ひました。実際にやる楽しさ、そこからつながっていく理論は、とても面白いです。面白いと思える体験を子どもたちももっともっと経験することができるよう、私にできることから始めていきたいと思ひました。

おもしろ科学たんけん工房のホームページ
<http://park2.wakwak.com/~tanken/>

市民の皆さん、地域の方々からのご支援を
どうぞよろしくお願い申し上げます。